

平成29年度蕨市母子保健連絡調整会議 議事録概要

日 時 平成29年7月11日

午後1時30分～午後3時

場 所 保健センター（健康教育室）

<出席者>

委 員：島崎会長 湊委員 三谷委員 薮島委員 坂本委員 大坪委員
関委員 杉田委員 福田委員 金子委員 石丸委員

事務局：朝倉保健指導係長 鹿嶋保健師

<欠席者> 山崎副会長 赤松委員

<傍聴者> なし

配布資料：①「蕨市母子保健連絡調整会議次第」、②「蕨市保健センターの事業統計からの抜粋 乳幼児健診等の結果」③「平成28年度蕨市母子保健連絡調整会議議事録概要」、④「蕨市母子保健連絡調整会議設置要綱」、⑤「蕨市母子保健連絡調整会議委員名簿」、⑥「不妊検査の助成事業について」

<会長、副会長選出>

任 期：平成28年11月1日から平成30年10月31日まで。

会 長：島崎委員

副会長：山崎委員 ※本日山崎委員は欠席ですがご内諾済。

会長挨拶

自己紹介

議事

<（1）平成28年度事業実施報告について>

◆事務局説明：平成28年度事業結果、主要事業・新規事業について説明。

①父子手帳交付開始：H28度交付数496冊

②「周産期からの虐待予防強化予防事業」が「妊娠期からの虐待予防強化事業」へ変更となり実施。

③育メン講座開始：妊婦疑似体験（「胎児の気持ち」を使用）、グループワークで「夫婦のコミュニケーションの大切さ」、アウトメディアの啓発についてという内容で実施。

④両親学級・プレママ講座から、パパ・ママ講座（妊娠・お産の経過、沐浴実習を助産師を講師として土曜日実施）とプレママ講座（2回コース：1回目 歯科健診・歯の健康づくりを歯科医師から講話、栄養士より妊娠中の食生活の話し、2回目 保健師より妊娠から出産後の生活の話し、先輩ママとの交流会、）として実施。

- ⑤尿検査の採尿、家で実施する簡単な目と耳の検査（目・耳のアンケート）の項目で実施できていない受診児が多かったため、10月より3歳児健康診査から3歳6か月児健康診査へ対象月齢を変更して実施。
- ⑥マタニティコンサート実施。

○会 長：平成28年度事業について何かご質問はございますでしょうか。

○会 長：4か月児健診で、股関節脱臼等の疑いで精密検査となった方の結果は把握されていますか。

◆事務局：股関節脱臼の疑いのある方について、平成27年12月までの4か月児健診では、医師の診察の結果、股関節脱臼の疑いがあるお子さんが精密検査となり紹介状を発行しておりました。平成28年1月より、平成27年度のこの会議で検討していただいたとおり、股関節脱臼のスクリーニングとして、基準（日本整形外科学会・日本小児整形外科学会）をもとに、その基準で2項目該当するお子さんは精密検査となり、小児の股関節を診ていただける整形外科へ紹介ということで、4か月児健診で股関節脱臼のスクリーニングを導入いたしました。平成28年1月から開始して、平成28年度1年間では、36名の方が精密検査となりました。その後、全員の方が受診しており、異常なし32名 経過観察3名、要治療の方が1名でした。

○会 長：要治療の方が1名いらっしゃったということで、治療されているということですね。

◆事務局：はい。

○他にご質問はございますか。

○委 員：24ページの地区別受診状況で、4か月児健診の錦町地区、3歳6か月健診の南町地区で受診率が100%を超えているところがありますが、これはどのようなことでしょうか。

◆事務局：これは、対象者に問診票をお送りした時点での対象月の方が母数になりますが、転入などの関係で、受診者のほうが多くなることがあり、100%を超えている箇所はそのような理由です。

○委 員：実際には100%ということで良いですか。

◆事務局：はい。そのとおりです。

○委 員：歯科の健診ところで教えてください。

3歳6か月児健診は10月からになったということですね。31ページの3歳6か月児歯科健診の虫歯保有率21.3%ですが、今まで3歳児歯科健診ですと、12%前後だったと思います。

次の4歳6か月児歯科健診の虫歯保有率は18%でこれは例年どおりですが、3歳6か月児歯科健診の虫歯保有率が多くなっているのは、母数が違うからでしょうか。

- ◆事務局：おそらく、昨年度は3歳児健診が3歳6か月児健診になったため、10月から実施となりましたので、母数自体がかなり少なくなったためと思われます。
- 委員：それと、3歳から3歳6か月になったことで、少し増えたという可能性もあるのでしょうか。
- ◆事務局：そのことも、少し影響していると思います。今後の経過をみていきたいと考えております。

< (2) 平成29年度事業について >

◆事務局説明（新規・拡充事業）

- ①妊婦歯科健康診査開始：妊娠期からの口の中の健康づくりをすすめていく目的で、妊婦を対象に歯科健診を実施。母子健康手帳交付時に受診券を配布。歯科指定医療機関で歯科健診を実施。助成は1人1回。
- ②プレママ講座1回コースで実施。内容は、妊娠から出産後の生活、栄養と食事、先輩ママとの交流会。昨年度プレママ講座で実施していた歯科健康診査については、妊婦歯科健康診査事業として医療機関での実施へ移行。
- ③早期不妊検査費助成金交付事業開始：不妊に悩む夫婦の経済的負担の軽減を図ることを目的とし、不妊症の診断で医師が必要と認めた検査について、1回に限り2万円を上限に検査費の助成を行う。財源は県の全額補助事業。当市で要綱を定め実施。要綱で定める対象者は、次に挙げる全てに該当する者。

- ・ 法律上婚姻をしている夫婦。二人またはどちらか一方が蕨市に住民登録のある方。
- ・ 不妊検査時の妻の年齢が43歳未満。
- ・ 二人が不妊検査を受けている。

助成内容は、指定医療機関で実施した、不妊症の診断のために医師が必要と認めた一連の検査。保健適応の有無は問わず。指定医療機関と連携した医療機関（泌尿器科）が実施した検査も可。

検査実施日から6か月以内に実施した検査が対象。検査開始日が夫婦で異なる場合は、検査開始の早い方の検査日から対象となる。

現在の申請状況は、申請者3名と申請予定者1名。

特定不妊治療の助成事業については、県の助成事業として実施。

- 会長：不妊検査事業は42歳まで出してくれるということで、不妊治療は県のほうで助成があるということですね。
- ◆事務局：はい。

< (3) その他 >

①市のがん検診について

○会 長：受診したお子さんのお母さんに、子宮がん検診や乳がん検診を勧めることがあり、実施方法を聞かれるので教えてください。

子宮頸がん検診はどのように実施されていますか。

◆事務局：妊婦健診の時に一緒に検診ができるようにしています。妊婦健診の助成券の中に子宮頸がん検診の部分も入っております。

○会 長：30歳以上の方はいかがですか。

◆事務局：市のがん検診で、20歳以上の方を対象に、蕨・戸田市内の指定医療機関に委託をして、子宮頸がん検診を実施しています。

○会 長：著名人の方の乳がん罹患などがありました。受診率は上がっていますか。

◆事務局：昨年、一昨年と予定していた日数では、まかないきれない程の検診申込がありました。今年度は、日数を昨年度よりも多く設定し、申込を受けております。

○会 長：乳がん検診も医療機関での検診ですか。

◆事務局：クーポン対象者である40歳の方のみ医療機関での検診となっております。それ以外の30歳以上の方は、保健センターで集団検診での実施となります。

○会 長：検診はマンモグラフィですか。

◆事務局：40歳代の方は、マンモグラフィ2方向撮影です。それ以外の年齢の方は1方向撮影で検診を行っています。

○会 長：高度濃度乳房については何か対策をされていますか。

◆事務局：今年度から、指定医療機関での検診では、高濃度乳房である方に対し、その旨を医療機関からご説明いただくようになりました。

また、授乳中の方、断乳後1年未満の方は市の乳がん検診は対象としていません。

②外国人の方への対応について

○委 員：先程健診の地区別受診率のところ、塚越地区に外国人の方が多いのではという報告がありましたが、児童福祉課でも、窓口に手当や保育園の申請で来庁される方で外国人の方が増えていると感じています。

その中で、手続きなどのやり取りで、説明に対してその場では「はい。」と言う返答があるようですが、実際には日本語の理解が完全でない方もいらっしゃって、手続きに戸惑ったり、後でフォローが必要であったりといったケースもあるようです。

外国人の方へ健診受診の文書について読める、読めないなどの声を聞いたりしていますか。また、案内の通知を送る際に、文書などの漢字に振り仮名を振ったり、英語表記にするなど何か対応はとられていますか。参考までにうかがいたいので教えてください。

◆事務局：外国人の方向けに、文書を英語にしたり振り仮名を振ったりなどはできていない状況です。

現在、外国人の方への受診についての対応は、受診に来られなかった場合に、

電話や訪問などで受診していただくよう説明しています。

ただ、不在のことが多く、何回か訪問してお会いできないと、児童福祉課から要保護児童対策地域協議会へ報告をしていただき、その後出入国調査をお願いしております。その結果、母国へ帰っていることが判明したといったケースが多くありました。

ご質問のありました、受診案内の文書を含め、問診票等の工夫についてはできていない現状です。

○会 長：確かに外国人の方が増えてきていますね。

○委 員：気になって調べてみましたが、蕨市全体の外国人率は7.6%で県内で一番高い状況でした。5歳以下でみると一番高い塚越地区は10%を超えている状況で、一番少ない錦町は2～3%でした。10人に1人となるとかなりの高率だと思いますので、何らかの外国人の方への支援が今後必要になるのではと考えます。

午後2時50分、事務局より閉会を宣言。

蕨市母子保健連絡調整会議
会長 島崎 信次郎